

平成29年度

上山市立図書館の運営方針について

館長 齋藤 光

1 上山市立図書館の使命、理念

- (1) 多様な資料や情報の発掘に努め、収集・保存し、一般市民の利用に供し、市民の知る権利を保障する。
- (2) 市民の教養・調査研究等に資することを目的とし、生き甲斐や、心の豊かさを生み出す生涯学習の推進を援助する。

2 上山市立図書館の目標 ～めざす図書館像～

- (1) 市民一人一人が参加し、快適に利活用できる図書館
- (2) 市民が交流し、新しい文化を創り、育てる図書館
- (3) 市民の学習を援助し、生き甲斐を発見できる図書館
- (4) 市民の知的遺産を発掘、収集、調査、保存、活用できる図書館

3 上山市立図書館の運営方針

(1) 魅力ある図書館づくり

- ① 市民生活に密着したより質の高いサービスを提供する。
- ② 資料提供については、利用者の秘密を守り、知る権利の保障に最善を尽くす。
- ③ 高齢者や障害者等に優しい情報提供や読書環境を整備する。
- ④ ロッカー更新、トイレ改修、ブラインド修繕・新規設置等の整備を行ったので、館内の温度・照度等一層の適正管理を行い、快適な環境づくりに努める。
- ⑤ カウンターでの対応については、市民に寄り添い、明るく丁寧な対応に心する。
- ⑥ 災害時やクレーマー対応等に関わる危機管理体制の充実を期する。（研修・訓練）

- 1 図書館情報システムのハード・ソフトと光回線への更新を図る。
- 2 地域密着型の情報発信として、「深山さくらコーナー」、「モンテディオコーナー」、「国際交流都市 ドナウエッシンゲン市」、「上山が生んだ 齋藤茂吉翁」等の充実を図る。
- 3 レファレンス体制を重視し、市民の知的欲求に応えられるよう努力する。
- 4 出前図書館の拡充等、一層の推進と充実を図る。
- 5 図書館ホームページ、図書館だより「来ぶらり」、市報の図書館コーナー「図書館さ行くべ!」の内容充実を図る。
- 6 市内店舗（12）との連携による割引サービスを引き続き実施する。
- 7 長期休業時には、子ども対象の「アニメ上映会」を実施する他、「とんと昔と影絵のつどい」「スプーンの会のつどい」を実施する。

(2) 伝統を創る

- ① 資料の計画的・体系的な収集に努め、寄贈図書を受け入れる等して、図書館資料の充実を図る。
- ② 全国に名を馳せている文化人・偉人を始め、地域資料の発掘に努め、収集、整備して積極的に市民に公開していく。（講座・市報や館内の展示や「来ぶらり」で）
- ③ 伝統的に実施してきた図書館事業を継続し、教育と文化の向上に貢献していく。

- 1 図書館資料の充実のため、購入予算の増額を要望していくとともに、寄贈図書を積極的に受け入れていく。
- 2 特に上山市に関連する著書、偉人、文化、自然等に関する「テーマ展示」や「企画展」に心する。
- 3 学校や公民館等への団体貸し出しを一層推進する。
- 4 特に課題資料としている「齋藤茂吉」「温泉」「カセ鳥」「干柿」「金山峠」についての新史料の発掘・収集に力を入れていく。
- 5 読書感想文・感想画コンクールの質的充実を図る。（特に応募数の増加、感想画募集の高校生までの拡大）
- 6 図書館に寄贈してある「・・・家古文書」の解説を加えた目録の作成に努める。

(3) 人を創る

- ① 相談業務（レファレンス）の適切な対応に努める。
- ② 「上山市子ども読書活動推進計画」の具現化を図るために、学校、公民館、行政等の関係機関との具体的な連携を密接にし、事業を展開していく。
- ③ 全国的に活躍した郷土の偉人（歴史的偉人、現在活躍している人）について、広く市民に周知し、上山市民としての誇りを養う。
- ④ 職員の研修を充実し、使命感を持って図書館業務に当たるようにする。

- 1 県立図書館を初め、各公立図書館及び学校図書館との連携を深める。
- 2 図書館司書・学校司書・図書館主任・研究所図書館部員との交流を深めて、読書指導の在り方について実質的な研修を深める。
- 3 第3日曜の週を「家庭読書の日」とするという「子ども読書活動推進計画」の具体化に向けて、学校での啓蒙活動を促すと共に、ポスター等で市民に周知する。
- 4 キャリアスタートウィーク（中学生の職場体験）を受け入れる。
- 5 年2回実施してきた「子育て・教育支援講座」を再検討していく必要がある。
- 6 学校と連携し、二分の一成人式記念の図書館利用カードの作成に当たる。また、学校教育の一環として、図書館来館計画を勧める。

(4) 文化を創る

- ① 図書館ボランティアサークル活動の一層の充実・推進を図る。
- ② 文化団体協議会を初め、各種文化団体との具体的な連携事業を考慮し、講話や展示・演奏等を企画し、文化に対する幅広い教養を高める。

- ③ 市内に存する他の文化機関（上山城、茂吉記念館、蟹仙堂）及び、大学、小中学校や公民館や行政との連携を密にし、市の文化的風土の気運を一層醸成する。
- ④ 地域に残る有形・無形の文化及び、学校文化について、発掘・整備に努めるとともに、講演や展示等を通して市民に発信していく。
- ⑤ 過去の優れた映像文化の作品に触れる場を提供し、市民の心の豊かさを養う。

- 1 原則として月1回「名作映画鑑賞会」を実施する。
- 2 郷土史研究会や古文書研究会等との協力を得て、「上山ふるさと散歩」（「文学散歩」より改名）を年3回開催するよう努める。
- 3 図書館ボランティアサークル活動の一層の充実・育成を図る。
（スプーンの会、つくしんぼ、上山昔話切り絵の会、とんと昔上山会、上山明新館高校図書委員会、読み聞かせ個人ボランティア）
- 4 ボランティア養成講座を実施し、新規人材の確保に努める。
- 5 上山薬草研究会等との協力・・・年1回の「ふるさと講座」の実施

4 運営の重点

- (1) 図書館は、人々の「心の豊かさ」の探求の場であることから、学校や他の施設・機関と連携しながら、多様な学習意欲に対応し、市民に愛され利用される施設になることをめざす。
そのために、特に、次のことに留意する。
 - ① 図書館協議会での図書館の管理、運営、サービスなどの提言を大切に、経営に生かすよう努める。
 - ② 利用者の多様な予約・リクエストの情報を選書に反映できるように努める。
 - ③ レファレンス体制を充実させるために、職員の研修を充実する事は勿論、その道に長けている人との連携の在り方を探り、助言が受けられる体制づくりに努める。
- (2) 郷土上山に住み続ける事を誇りに思う郷土愛を育むためには、もっと上山を理解する必要がある。そのために、上山の文化財は勿論、過去・現在と全国で活躍している人材（偉人）の整理や発掘に努め、講演や展示等の手段で、積極的に市民に情報公開していく。
- (3) 市立図書館に寄贈された多くの古文書類（明新館文庫・増戸文庫・山田家文書）や、石井順三文書・各学校の文集等について目録を作成し、市民が閲覧可能なように準備していく。（古文書類は、資料名の他に解説した要約を記述した目録を作成）
- (4) 平成25年度に作成した「上山市子ども読書活動推進計画」の具体化を図るために、図書館と学校・幼稚園・保育園との連携を密にし、子ども達が楽しく参加できる「家庭読書の週」の意義を再確認し、事業を推進していく必要がある。
 - ① 校長会発案で実施している「二分の一成入式」の図書館利用カードの作成。
 - ② 各校で学年を指定し（南小は2年生）教育活動の一環として、年1回図書館

を訪問し、公立図書館の意味、マナー、借り方・返し方、利用方法等を学習する。
③ 市立図書館と学校図書館関係者及び行政との研修交流を促進し、読書指導の充実を図る。

(5) 半世紀以上にわたって実施している伝統ある図書館主催の「読書感想文コンクール」や「読書感想画コンクール」の充実・発展を図るように努める。なお、平成29年度からは、感想画の募集対象に高校生も新たに加える。

5 現在抱えている課題

(1) 職員体制の充実

現在、日々雇用職員を中心にカウンター業務を遂行しているが、日々雇用職員が年度途中で幾度となく代わるなど、安定した運営に支障をきたしているため、適正な人的配置及び構成が必要である。特に、今年度は、図書館のリーダーとして尽力してきた職員が退職になる事より、その後の体制の在り方が課題である。

＊ 図書館市職員以外の司書は、一昨年度より2名から3名に増えた事は大きい。

＊ チェンジは最高のチャンスと考え、全職員の結束を促していく。

(2) 蔵書の紛失

一般書や雑誌等の紛失は、ここ数年は減少しているが、それでも年間100冊程度が紛失している。職員が気付かないうちに返却されている場合もあるが、過去10年間の累計で約1,200冊にもなっている。

＊ 館内を定期的に巡視している。

＊ 紛失の多い雑誌は、表紙及び目次を配架し、本体はカウンターに保管。

＊ 「図書館からの緊急の訴え」として、不明本の実態や無断持ち出し本の禁止についてのメッセージを展示したり、期限日になっても無返却の者には、今年度策定の「上山市立図書館督促と賠償に関する取扱要綱」に基づき、返却に対する法的な手段も考慮している。

＊ かばんやバックを館内への持ち込み禁止や防犯カメラ設置の検討。

(3) 一般入館者及び児童・生徒の利用者数の減少

この件については、当館だけでなく多くの図書館での課題になっている。少子化とか人口減等の要因も考えられるが、当市ではカミンの実情に係る要因も大である。また、図書館自体が魅力あるものになっているかと反芻してみる必要もある。

＊ 新刊購入増を図るための図書購入費の増額を要望していく。

＊ 児童には、学校と連携して「二分の一成人式」を記念して、図書利用カードを作成している。(今年度4年目)

＊ 「上山市子ども読書活動推進計画」が作成され、第3日曜の週を「家庭読書の週」とし、「図書館に行こう」「本屋に行こう」「本を読もう」を奨励している。

(4) レファレンスの充実

図書資料のレファレンスだけに限らず、専門的分野の問い合わせが多いことより専門分野に長けた方々を紹介するとともに、ご協力を頂く等の対応をしていく

必要があり、日々の連携が大切になっている。

- * 文化財専門員や文化財保護審議会委員及び、上山城学芸員との連携
- * 専門分野の方々への紹介(郷土史家、植物研究者、薬草研究者、各文化団体)
- * 専門的な質問以外の図書資料のレファレンスに、迅速・適切に対応できるように、職員の日々の研修が大切になる。

(5) 学校と連携した読書指導の充実

以前の「図書館司書と学校司書の連絡会」が形骸化している現状もあり、2年前より、研修内容を見直し、図書館司書と学校司書及び図書主任、教育研究所図書館部会員が一緒になって「読書指導の在り方」をテーマとし、合同研修会を実施している。今後の講師や研修内容が課題になっている。

また、図書館協議会の会議の1回は、各学校図書館を順番に視察する事とし、各学校図書館の抱えている課題を共有して、市立図書館経営にも生かすように努めているが、さらなる充実が求められる。

- * 学校司書(4名)、学校図書主任、市立図書館司書、ボランティアサークル等を対象にした、合同研修会を実施し、読書指導の基本的な考え方を学ぶ。

(6) 市立図書館への寄贈冊子や、古文書史料の整備と目録化(古文書史料名・内容の概略・大きさ・保管場所等記載)を早急に完成させ、市民に公開していく事が求められる。古文書の解説が課題となる。

(7) 館内の特別展示(特に企画展の計画)の内容の吟味と、今後の計画をどのように考えていくか。

- * 今年度は、移転開館20周年を踏まえ、「図書館20年の歩み」を中核に「上山市の地区公民館」「第7次振興計画」「上山温泉の歴史」「佐藤南山寺」「蔵王の樹氷」「西一小・中川小・南小」の展示を実施してきたが、できるだけ郷土との関わりのある偉人、文化財、未展示の学校等を精査していく必要がある。

(8) 近年、地域の公立図書館の担う役割が問われている。「街づくり 核は図書館」との声も広がっている。街づくりや地域振興に役立てることを目的にした図書館事業を展開していくことが求められる。

(9) 近年、夏期の子どもや高齢者熱中症防止のため、飲み物の制限緩和を要望する市民が増加している事より、他図書館も参考にし、水筒やペットボトル等の蓋の付いた容器に入ったアルコール以外の飲み物に限り、場所を指定して制限を解除することを検討する。